

授業評価アンケート 調査結果報告

昨秋に実施した第5回「授業改善のためのアンケート」調査結果の概要を、今月（通年科目）と来月（後期完結科目）の2回にわたって報告します。データ分析は、調査を実施した（株）日経リサーチによるものです。なお結果の詳細については、4月30日まで教務課、図書館、学友会本部で閲覧できますので、ご覧ください。

調査概要 (通年科目)

【調査実施時期】2001年10月16日～30日

【調査対象】獨協大学の全学生

【調査方法】授業出席者に対して配布授業時に回収

【調査内容】教員評価、授業満足度、講義・演習・外国語・体育実技等の評価

【調査回収サンプル数】 合計 43117サンプル※

学部別	サンプル数	学年別	サンプル数
外国語学部	17299	1年	13383
ドイツ語学科	4805	2年	14519
英語学科	8715	3年	8818
フランス語学科	2972	4年	4638
言語文化学科	807		
経済学部	14155		
経済学科	6715		
経営学科	7440		
法学部	9843		
法律学科	7510		
国際関係法学科	2333		

※学科、学年が未記入のものを含む。

【教員所属学科別回収率】

教員所属学科	受講者数	回答者数	回収率
外国語学部 合計	39561	23781	60.1%
ドイツ語学科	5685	3822	67.2%
英語学科	16211	11216	69.2%
フランス語学科	4205	2588	61.5%
言語文化学科	8749	3583	41.0%
共通科目	4711	2572	54.6%
経済学部 合計	29695	11515	38.8%
経済学科	15572	4781	30.7%
経営学科	14123	6734	47.7%
法学部 合計	18741	7821	41.7%
法律学科	10265	3955	38.5%
国際関係法学科	8476	3866	45.6%

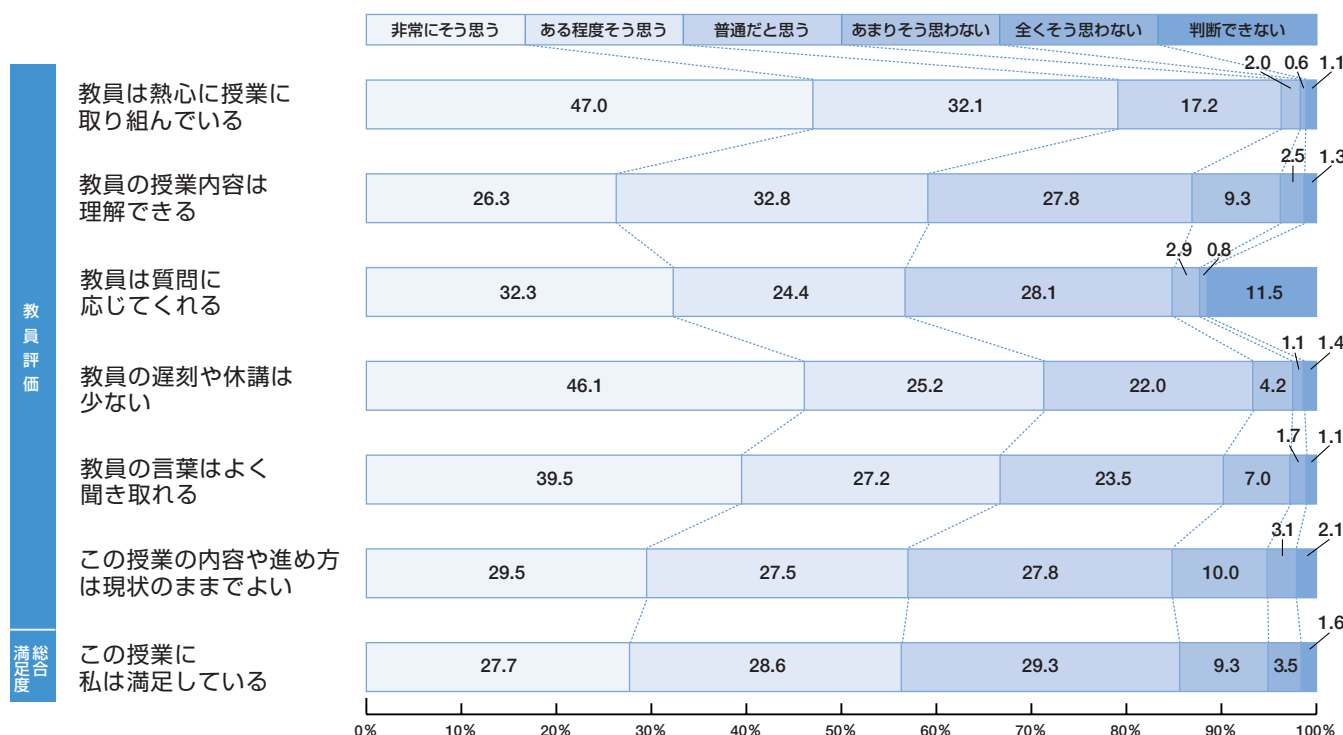
共通項目全体について

○教員評価の項目を「非常にそう思う」の割合で見ると、最も評価が高いものは「教員は熱心に授業に取り組んでいる」で、47.0%となっている。

「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」の合計では、「教員は熱心に授業に取り組んでいる」が79.1%と8割近い評価を得ているほか、「教員の遅刻や休講は少ない」（71.3%）、「教員の言葉はよく聞き取れる」（66.7%）などの評価が特に高くなっている。

全般に評価は高めであるが、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の合計スコアがやや高いものは「この授業の内容や進め方は現状のままでよい」（13.1%）、「教員の授業内容は理解できる」（11.8%）で、否定的評価が1割を超える。

○総合満足度は、「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」の合計で56.3%と、6割近くが授業に満足している。



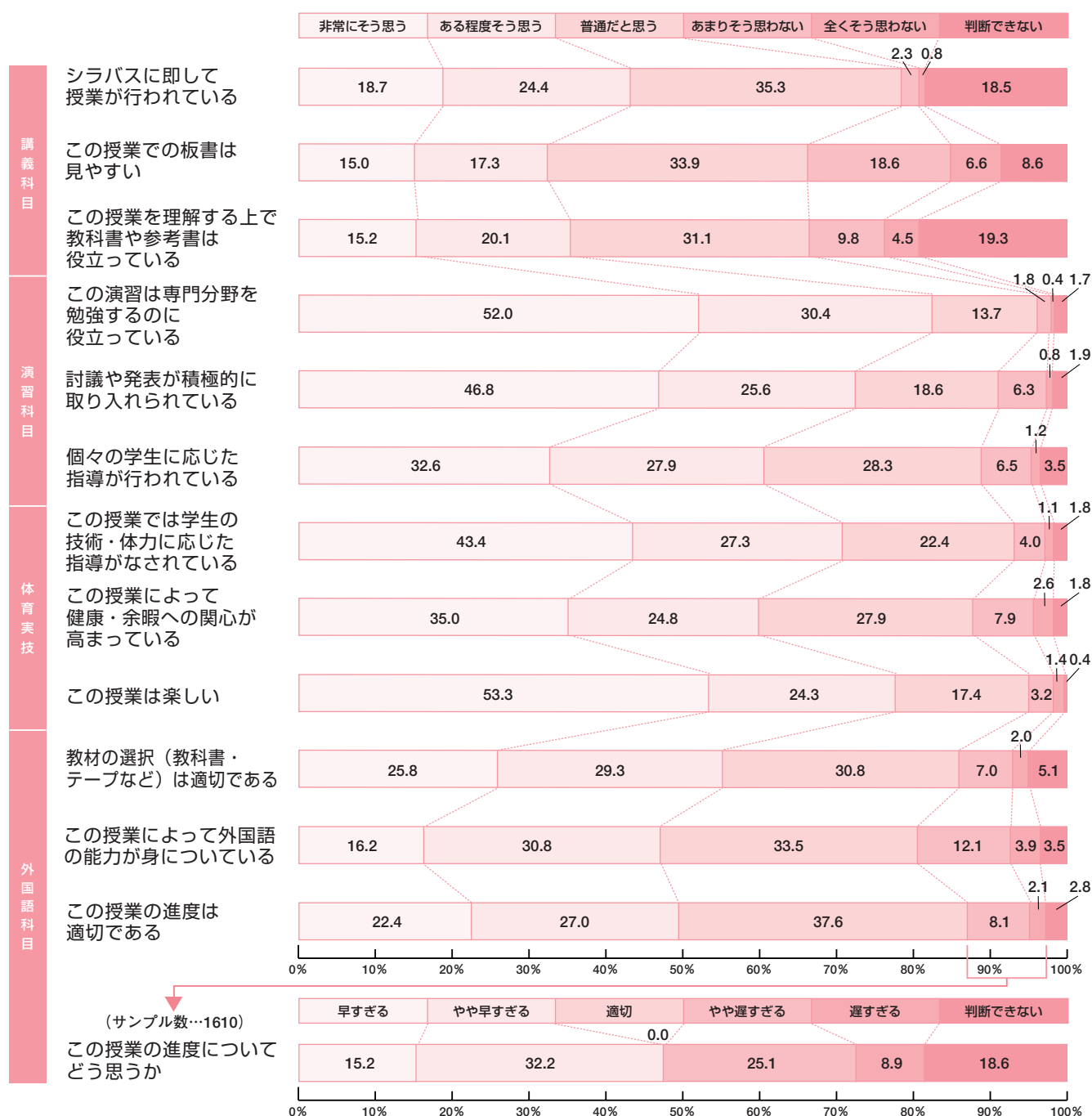
新
入
生
へ
!
情
知
つ
報
得

コンピュータリウム コンピュータをわりとすぐ使える時間帯は1限と18時30分以降。サポート体制も万全で、最新の設備が揃っている。レポーターなどは家でやるより大学でやったほうが早く終わります。1年生は慣れるためにティーチングアシスタント(TA)にどんどん質問をしてコンピュータを活用してほしいです。森崎 香名 (英4年)

個別の授業科目について

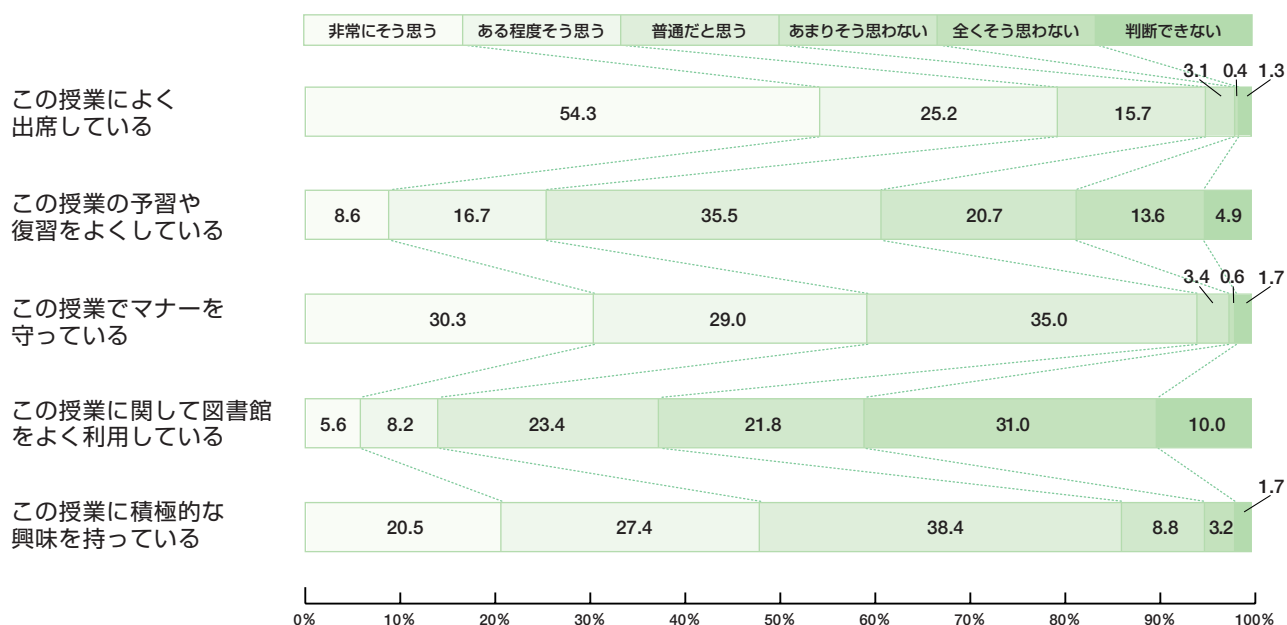
- 演習科目と体育実技については評価が高い傾向。
- 演習科目では「専門知識の習得に対する役立ち度」について「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」の合計で82.4%となっており、非常に高い評価を得ている。また、「討議や発表が、積極的に取り入れられている」においても「そう思う」の合計が72.4%と評価は高い。
- 体育実技では「この授業は楽しい」について、過半数が「非常にそう思う」と評価している。
- 外国語科目では「使用教材」「能力の会得」「授業進度」という3つの視点のいずれもやや低い評価となっている。一方、「授業の進度は適切」について、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の回答者に対し、「授業の進度をどう思うか」を尋ねたところ、5割近くが「早すぎる」としており、「遅すぎる」を10ポイント以上、上回っている。
- 講義科目については、「そう思う」の合計が32.3%から43.1%と、評価が高いとは言えない。

※サンプル数…講義科目23308、演習科目2777、体育実技1248、外国語科目15784



自己評価項目について

- 「この授業によく出席している」についての自己評価は、「非常にそう思う」が54.3%と5割を超える。「そう思う」の合計では8割弱となっており、アンケート回答者の授業の出席率の高さがうかがえる。
- 次に評価の高いものは「この授業でマナーを守っている」で、「非常にそう思う」が30.3%、また「ある程度そう思う」との合計では約6割と、授業態度の自己評価も比較的高い。
- 一方、「この授業の予習や復習をよくしている」と「この授業に関して図書館をよく利用している」の割合は低く、「そう思う」の合計が「予習や復習」では25.3%、「図書館の利用」が13.8%となっており、授業時間以外の勉強に臨む姿勢には弱さが見られる。
- 「この授業に積極的な興味を持っている」においては「そう思う」の合計は47.9%と、5割に届かない。「普通だと思う」のスコアが4割近くに上ることから、授業に対する関心が強いとはいえ、勉強に臨む姿勢の弱さにつながっていることがうかがえる。



データ分析

全体データ

● 共通項目全体について

教員の授業に対する熱心な取り組み、遅刻・休講の少なさに対して高い評価となっている。一方で、授業内容の理解、質問への対応、授業の内容・進め方が現状のままでよいか、といった項目については比較的评价が低くなっており、この点の改善が授業満足度の向上へつながると考えられる。

● 個別の授業科目について

講義科目はどの項目でも「普通だと思う」の回答が最も多かった。特に教科書および参考書の役立ち度や、板書の見やすさに対する評価が低くなっている。演習科目は他の科目と比較して全体的に評価が高く、特に専門分野の知識習得については高い評価となっている。外国語科目の能力の習得については、経済学部と法学部の学生の場合、外国語学部の学生と比較して低評価の傾向が見られる。体育実技は出席率もよく、授業の楽しさに対する評価が高くなっている。

● 自己評価項目について

授業の出席率についてはよいと回答している学生が多い。一方で、予習・復習や、図書館の利用についての自己評価はかなり低くなっている。教員に授業内容の改善を求める一方で、学生の自己学習に対する消極的な姿勢がうかがえる。

属性別データ

● 学年別

学年が上がるごとに評価が上がる傾向にある。特に授業満足度では1年生と4年生では20ポイント以上の差があり、在籍年数が長くなることで大学の授業に慣れ、評価基準が若干甘くなっていることも考えられる。

● 学部別

教員評価では、質問に応じる態度については外国語学部で高い評価となっている。